

1. ツェルトの用途

- ・ケガや道迷いや疲労や天候悪化などで予定通りに下山出来なくなったときにツェルトでビバークする。
- ・日帰りで登山。山頂は風が強く寒い。そんな時にツェルトを張って風よけ。中で食事も出来ます。

2. ツェルトの臨機応変な対処

ツェルトを広げたり巻きつけたりして、風雨を防ぎ、体温の低下を防ぐ。ビバークを強いられた場合は、まず安全な場所を見つけ、服をすべて着込みます。雨具や荷物の一部をお尻に敷き、ザックを背中側において斜面や木立によりかかるように座り、頭からツェルトを被ってください。手持ちの細引きなどで天頂部を吊り、可能ならばさらに四隅をベグダウンして設営することで、空間が広がり、より快適になります。



オクトス
NEW 透湿防水ツェルトライト 13,200 円 (税込)
1~2 人用のポール・ストック・ロープを使用して設営
本体 415g

中で傘をさすと空間が広がる



①ストック・ポール等を使用して設営
居住性を重視した最も基本的な設営方法です。ポールの代わりに直接木などに結び付けても設営できます。



②かぶったり、包まって使用
緊急時や、休憩時に雨・風を防ぐための使用方法です。
多人数での使用にも向いています。



③雪洞のふたとして使用

雪洞の入り口のふたとして使用すると風雪が吹き込むことを防ぐことができます。



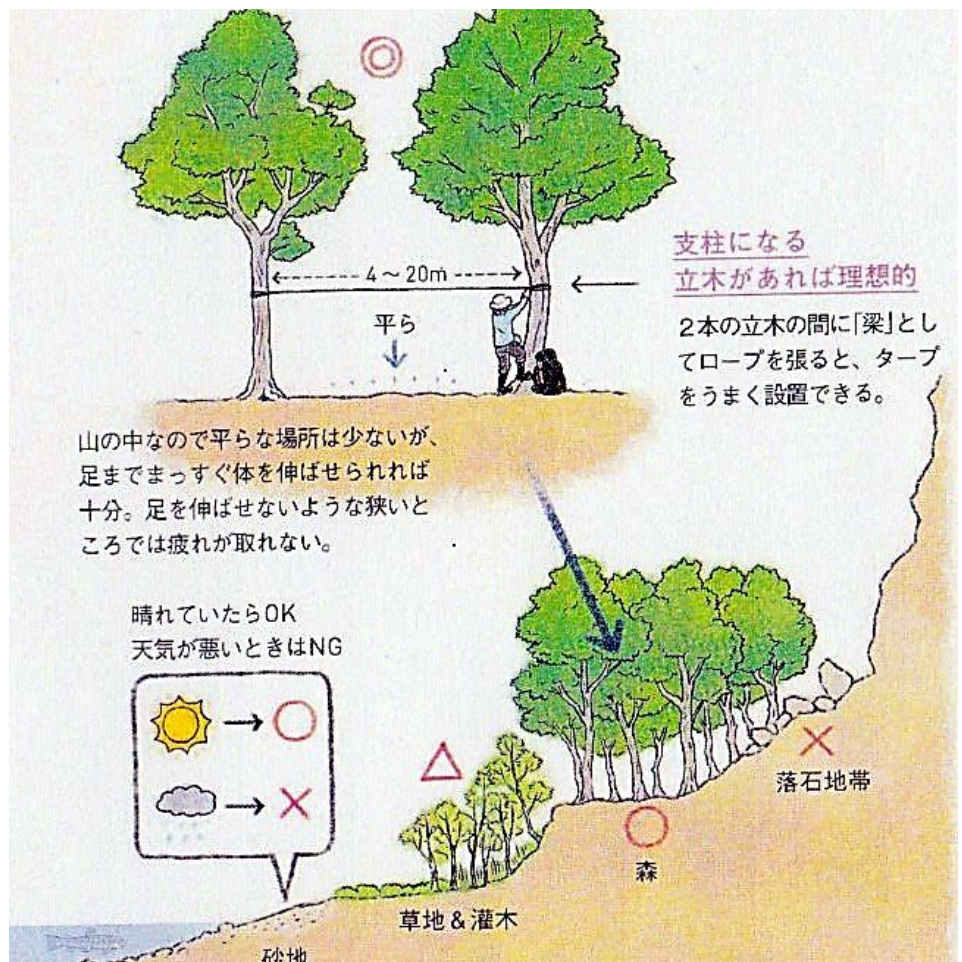
④タープとして使用(ツェルト2ロングのみ)

ツェルトの底を開放してタープとして使用できます。

3. 野営地の選び方

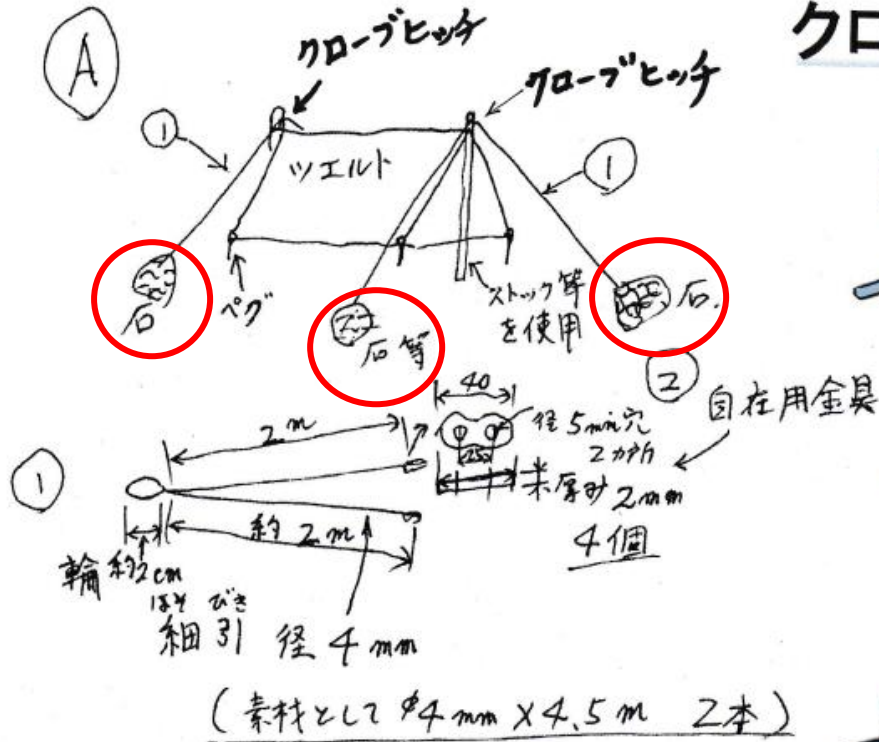
△	草地 & 灌木	<ul style="list-style-type: none"> 増水時に水に浸かる場所かどうかは植生を見れば判断できる。 砂地は頻繁に増水に襲われていることを示し、その次が草地になる灌木のところは冠水することもある。
○	砂地	<ul style="list-style-type: none"> 河原(とくに砂地の河原)は明るく、生活もしやすいが、増水に注意しなければならない。晴れていたらOK。 ・天気が悪いときはNG。夜に増水に遭うのは避けたい。
X	落石地帯	<ul style="list-style-type: none"> ・寝ているときに落石が起こると対処がむずかしく、致命的である。 ・まわりに角のある落ちたばかりの岩が散らばっているかないかで落石の有無は見わけられる
○	森	<ul style="list-style-type: none"> ・森の中は増水の心配がないし、雷や地震で被害に遭うことも少ない。風も避けられる。落石も森の中のほうが少ない。

ツェルトは自立しないタイプですので、設営後の移動はできません。設営場所を選ぶ際には充分注意してください。



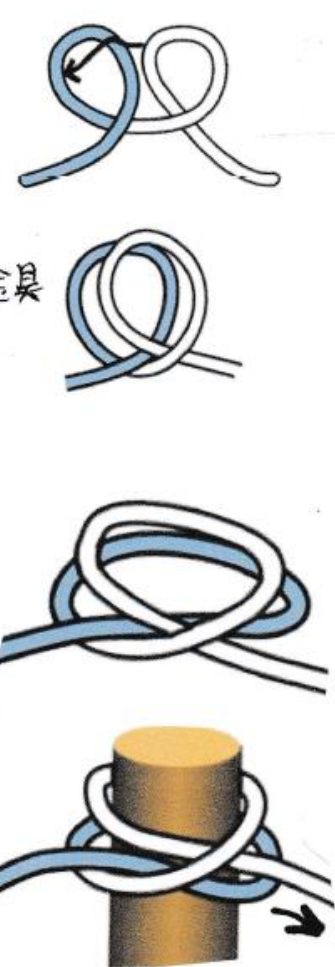
ツェルト使用时 があると便利なものです。

クローブヒッチ



③ ペグ 最小 4本

(素材として $\phi 4\text{mm} \times 4.5\text{m}$ 2本)



ツェルトの設営に必要なもの

- 2から4mm の張り綱2本。末端に自在金具(樹脂製が安全)。居住性をアップさせたい場合はサイドリフター用の張り綱
- ペグ(最小4本、あれば8本。サイドリフター左右用含むと最大12本) 無ければエバンスノットで石に結ぶ
- ロープに吊り下げるなら径6mmの細引き 10m位と径3mm 長さ1mの細引きで輪を作り簡易カラビナをつけた物を2本(右図)



ペグはカウヒッチで結ぶと外れにくい



ループの下から親指と人差し指ですくい上げます。

ループの下から親指と人差し指ですくい上げます。



ループの根元をつまんで引っ張り出します。

ループの根元をつまんで引っ張り出します。
<https://kamiyama-online.com/guyline-stopper-to-both-side/>



カウヒッチをペグに掛けます
 図は神山オンラインから引用

1 ロープを使ったツェルトの設営方法

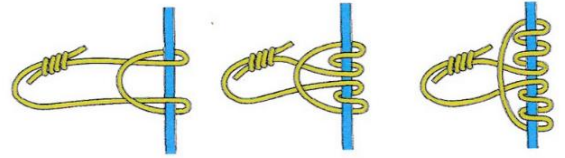
動画 4分 https://youtu.be/Km_lFzXrcag

- ・トレッキングポールを使った設営方法よりも簡単で、且つ倒れにくい。い設営が可能です。
- ・入口の前をポールが塞ぐこともないので、出入りもとてもスムーズになります
- ・クライミングロープの代わりに 4mm 程度の細引きを 10m 程度持つておくの良いでしょう。

張り綱はポールを使用しない場合でも木などからぶら下げるのに使用できるので、常時取り付けておく便利です。ツェルトの底面は開いているので結んでおきます。

◆入り口は風下側

プルージック



カラビナと細引きをセットしたものをロープにプルージック結びで引っ掛ける



木と木の間張ったロープの真下に、ツェルトの中央部がロープの線上に来るようにペグダウン。短辺片側 2箇所をペグダウンしたら、反対側をしっかりと引っ張り、きれいな長方形になるように設営します



底辺をペグダウンしたら、ツェルトの頂点部を持ち上げていきます。頂点部には、予め小さなカラビナと 2mm の細引きを輪にしたものをセットしておきましょう。



細引きをロープにプルージックで結びつけ、頂点部の直上にセットします。



頂点部のループと細引きを小さなカラビナで繋がります。



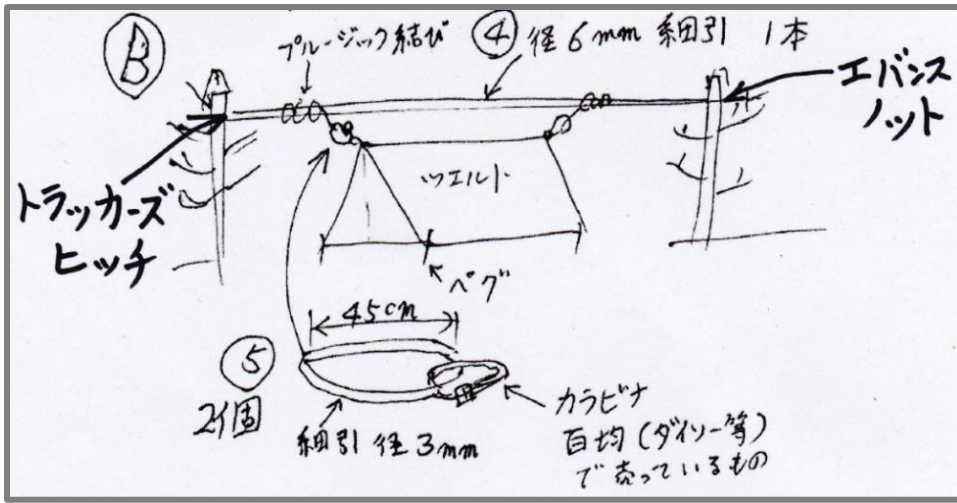
プルージックを動かし、各頂点部を開く方向に張って行きます。この時ツェルトにシワが寄らないよう、均等な配分でテンションをかけます。



長辺側底辺中央部にあるペグループと、サイドリフターを細引きで繋いでおきます。細引きをまっすぐ引っ張りツェルト内部の空間を広げたところでペグダウンします。

時間が経つと、ツェルトやロープが弛みます。就寝前にはもう一度全体にテンションをかけ直しましょう！

ツェルトをピシッと張ることで防水性が高まる（雨傘がそうであるように）



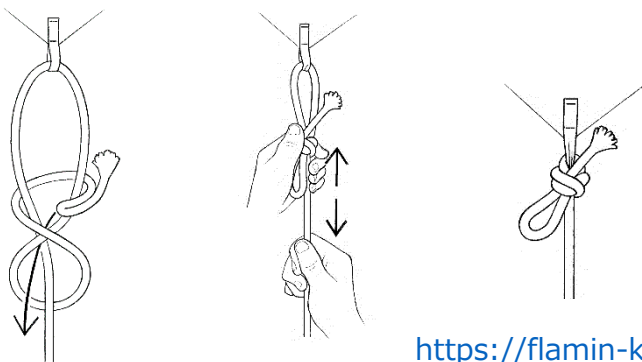
エバンスノット (二重止め結び)

エバンスノットは結び目部分が移動し、輪をきゅっと締められるため、木にロープを固定する際も移動しないので便利。ペグが打てない場所でペグ代わりに石に巻き付けることもできます

1. ロープの末端を、石や木に巻きつけ、末端を手前に伸びるロープの裏側に通します。
2. 中心に向かって 3 周巻きつけます。この時、左手の親指に巻くと簡単です (左利きの人は右親指)
3. 末端を 3 周巻いた輪の中に通す。(親指を抜いてできたループに通す)
4. 末端のロープを引き、結び目を締めます。
5. 手前に伸びるロープを引くことで、結び目が中心に向かって移動します。固定する対象物にキュッと締め付ければ完成。結び目を手前に引けばゆるまります。

◆何にも巻かずに同じ工程で大きなロープを作ることができます。こうすれば石に巻き付けるのも簡単

◆末端を以下のように引き解けにすると撤収が楽になります。



<https://flamin-ko.com/rope-work/>

フラミン子 Blog から図を引用

2 トレッキングポールを使ってツェルトを設営する

【登山に役立つツェルトの使い方】4.ツェルトの設営方法 | ファイントラック

<https://www.youtube.com/watch?v=JQqh7IA238g>



1. 入り口ファスナーを開めます



2. 四隅をペグで固定します。



3. 各コーナーから 1m にペグを打ち込ん（もしくは石）で、あらかじめ張り綱をセットしておく



4. トレッキングポールを立てる
（125cm の長さがよい）。雪面ではグリップを上にとすると、ストックが沈みません。硬い地面であれば、ストックを逆さまにして石突を下から差し入れても利用できます。



5. トレッキングポールから 1m の処にある張り綱に掛けてテンションをかける



6. 反対側も立てる



あれば 横の張り綱を張る。サイドリフターの付け根がツェルト底面のサイドラインを超えない程度に軽く引っ張るくらいで十分



寝る前に張り綱を張り直す



縦 8 つにたたむ。そして折る

◆入り口は風下側

◆入口側はポールとの間を 50cm 程度離すと出入りが便利。できれば片側を木に固定すると入り口が広く取れる。

他に <https://www.oxtos.jp/shopdetail/000000002976/>

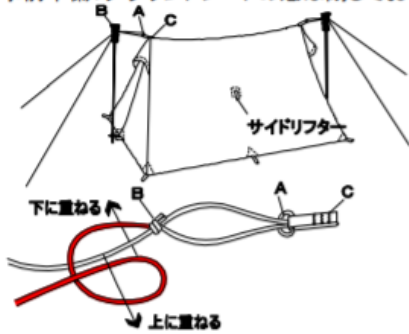
oxtos(オクトス)テントの設営 動画 4分 26秒



ツェルトの場合は四隅をペグで固定しておきます。
 ポールに対して 45 度の角度で、張り縄をペグで固定しておきます。
 自在で張り縄の長さを調整をしながらポールを立てて、ツェルトを立ち上げます。反対側も同様に行います。

ストック・ポール等を利用して設営する方法

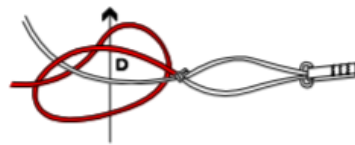
- ・ 用意するもの: 直径 2mm~3mm 程度の細引き 5m×2 本 (Ⅱ、Ⅱロングで居住性をアップさせたい場合はサイドリフター用のコードを推奨)
- ・ 事前準備: グラウンドシートの底は閉じておく(ピコシェルターはグラウンドシートなし)



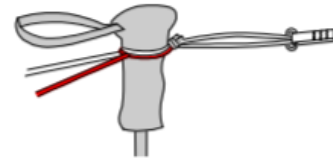
② 次にツェルト天頂部端のループ C に張り綱を固定します。そして図の要領でループを作り、上下に重ね合わせます。
 ※A~B のループを除くと、クローブヒッチ(インクノット)と同じ形になります。

保管の方法

① まず、はじめに 5m コードを半分に折り、半折部分を A とし、ツェルト天頂部端のループ位置を C、ストック・ポールを垂直に立てた位置 B の AB 間の長さのところで、オーバーハンドノットまたはエイトノットで環を作ります。



③ 重ね合わせたら、2 重のループの真ん中 D にストック・ポールを差し入れます。



④ 高さを決定して、2 本のコードを引っ張ると完成です。最後にストックの高さを微調整してテンションを整えます。柔らかい雪面であればグリップを上にとすると、ストックが沈みません。硬い地面であれば、ストックを逆さまにして石突を下から差し入れても利用できます。
 ※ペグダウンする各末端では、市販の自在を使用するか、自在結び等で対処してください。

オーバーハンドノット

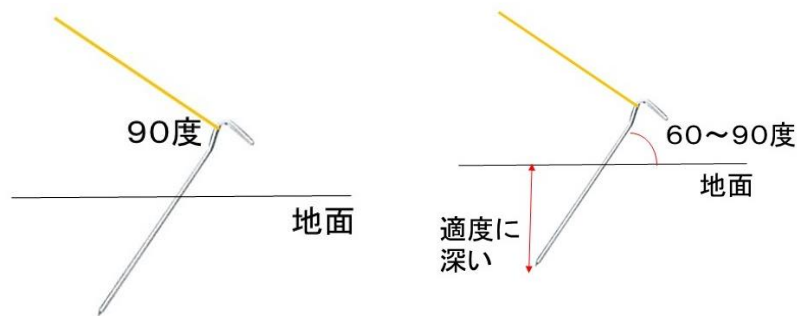


エイトノット



ペグの打ち方) ペグ打つ角度は何度がいいのか。

打ち込む角度は、綱に対して 90 度と言われているが、これは理想的環境の場合のこと。地面に対しておよそ 45 ~90 度の範囲で、最も利くところ（地面との抵抗等強度が保てる角度）であればいい。



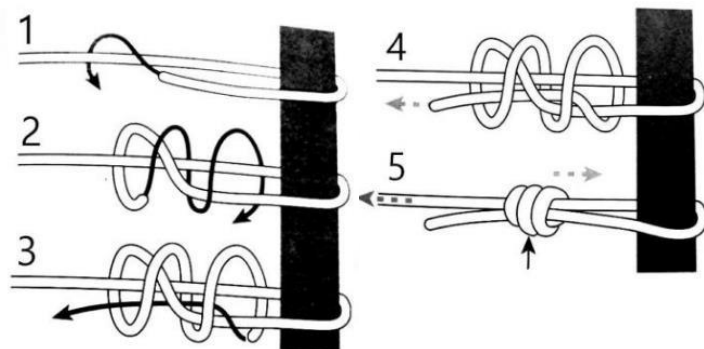
ペグが打てない、役に立たないとき

- ①木や車に張り綱を結び付ける。
- ②小石や砂などを丈夫な袋に入れて、袋と張り綱を結ぶ。レジ袋など破れやすいものには使用しないように要注意です。
- ③岩や重い石に張り綱を結び付けたり、または岩と重い石の間にペグを挟み込む。
- ④木の枝を集め束ねて張り綱で結び地面に埋める。この方法は雪のとき、砂地などで特に有効です。

<https://kamiyama-online.com/guyline-stopper-to-both-side/>



エバンスノット ツェルトの張り綱のペグ代わりに石を使う



- ①固定物に巻き付け矢印のように巻き付ける
- ②矢印のように 2 回程度巻く。左手の親指に巻くと簡単です（左利きの人は右親指）
- ③末端にループを通す（親指を抜いてできたループに通す）
- ④結び目を締める
- ⑤完成(輪が3つ見える)